

令和4年度（2022年度）

学校運営自己評価・学校関係者評価 報告書

武雄看護学校 看護科・准看護科

評価対象期間 令和4年4月1日～令和5年3月31日

1. 学校運営評価の目的

看護師等養成所として教育水準の維持・向上と創意工夫のある教育の追及を図るため、学校運営評価について必要な事項を定め、評価結果を活用して教育を改善していくことを目的とする。

2. 学校評価委員

学校評価委員氏名	所属
太田 光博	武雄看護学校 学校長
檜崎 史彦	武雄看護学校担当理事
草野 謙一郎	武雄看護学校担当理事
山口 聡子	武雄杵島地区医師会 事務局長
末藤 智子	武雄看護学校 副学校長
吉川 優紀	武雄看護学校 看護科 教務主任
平川 千里	武雄看護学校 准看護科 教務主任
大宅 幸樹	武雄看護学校 看護科 専任教員
古賀 悠華	武雄看護学校 事務

3. 学校関係者評価委員

学校関係者評価委員氏名	所属	区分
持田 和幸	医療法人敬和会 持田病院 副院長	医師会担当理事
重村 剛	重村医院 院長	医師会担当理事
渡邊 成樹	佐賀県立武雄青陵中学校	教育に関する
松尾 竜一	医療法人整肢会 副島整形外科クリニック	卒業生
山口 貴美子	医療法人静便堂 白石共立病院	卒業生

4. 自己評価基準

各項目の達成度により、下記の5段階で自己評価する。

5 (よい) : 9割

4 (ややよい) : 7割

3 (普通) : 5割

2 (やや不十分) : 2割

1 (不十分) : 1割

5. 学校関係者評価方法

自己評価の評価尺度（5段階）に対して、評価が適切か不適切かを評価する。

6. 学校運営評価（自己評価）の内容

- I. 教育理念・教育目的
- II. 教育目標
- III. 教育課程
- IV. 教授・学習・評価課程
- V. 経営・管理運営
- VI. 入学
- VII. 卒業・就業・進学
- VIII. 地域社会/国際交流

項目Ⅰ 教育理念・教育目的

総括

カリキュラム改正を機会に准看護科・看護科両科で理念、目的、教育目標及び教育内容を構築した。学校の使命である地域で活躍できる看護師・准看護師の育成を幹として、国が求める思考力・創造力を備えた看護職を育成する内容とした。

課題・改善策

准看護科は令和4年度から、看護科は令和5年度から新しいカリキュラムでの教育を開始としているため、それぞれ卒業年度に達した際に評価を行い目標の見直しを行っていく。

小項目 Ⅰ-1

学習内容は、教育理念・教育目標と一貫性があり、時代の要請に応える内容になっているか。

■自己評価： 5 ■学校関係者評価： 適合

項目Ⅱ 教育目標

総括

教育目標は学生便覧・実習要綱に明文化している。また、その内容については、入学時オリエンテーションや実習オリエンテーションを通して学生へ説明している。目標の到達度については、終講試験や実習評価を共有し、学習の躓きが見られる学生を個別で支援できるように対策を取っている。しかし、卒業時の到達度については、卒業判定に関わる科目履修での評価のみである。

課題・改善策

令和5年度に向け、卒業生自身が卒業時の到達目標に対して自己評価を行い自己の習熟度を自覚できるよう支援の体制を整えていく。また、合わせてその結果を教育課程の修正に活かしていく。

小項目 Ⅱ-1

卒業時において持つべき看護師・准看護師の資質を、教育目標に明示しているとともに、卒業時の到達状況を分析しているか。

■自己評価： 3 ■学校関係者評価： 適合

項目Ⅲ 教育課程

総括

実習指導者と教員の役割に関しては実習要綱に明文化されており、実習指導者に周知を図り実践している。また、実習要綱は、毎年全領域の見直しを行っている。

実習開始に伴い、実習1カ月前には実習相談会を行い、病院実習では各病棟での学生の様子・指導に関して、各病棟の指導者と教員とで連絡を取り合い、情報の共有・指導内容について話し合い実践を行った。実習後の反省会については、実習指導者と教員で実習反省会の日を儲け実施した。

実習指導体制強化については、年に2回実習指導強化委員会より実習指導者を招き、あるいはリモート参加で学習会を行った。9月に「実習指導に活かすりフレクションの実践」について、11月に「新カリキュラムにおける実習の取り組み」について実習指導強化に向けて学習会を行った。

新任教員研修を開催し、『学生の主体性を引き出す授業方法』や『カンファレンスにおける教員の役割』をテーマとして取り上げ、職場内研修を実施した。90%以上の教員が参加できた。

令和4年度は、2名の教員が訪問看護ステーションで臨床研修を行い、自己の教育観・看護観について考える機会を得た。今後は、教員の専門領域に応じて研修ができるように計画していく。

令和4年度は、教員2名の授業参観を実施した。参観した教員から評価を受け自己の授業の課題を明らかにすることができた。

課題・改善策

学生の主体性を引き出す講義展開を目指して、教員が互いに授業を参観し、評価を受けながら自己の講義の改善に取り組んでいく。

小項目 III-1

実習目標が達成されるよう実習環境が整備されているか。

■自己評価： 4 ■学校関係者評価： 適合

小項目 III-2

実習指導者と教員の役割を明確にし、互いに協力し実習指導にあたる体制があるか。

■自己評価： 5 ■学校関係者評価： 適合

小項目 III-3

実習時の患者への倫理的配慮を励行しているか。

■自己評価： 5 ■学校関係者評価： 適合

小項目 III-4

実習時のインシデントアクシデント等を分析し、学生指導に活かしているか。

■自己評価： 4 ■学校関係者評価： 適合

小項目 III-5

学校の抱えている課題を踏まえた職場内研修を行っているか。

■自己評価： 4 ■学校関係者評価： 適合

小項目 III-6

学会または研修等に参加した成果を他の教職員に還元する仕組みがあるか。

■自己評価： 4 ■学校関係者評価： 適合

小項目 III-7

教員が計画的に臨床看護研修に参加できるよう支援しているか。

■自己評価： 4 ■学校関係者評価： 適合

小項目 III-8

教員の授業を他の教員が参観、講評できる制度があるか。

■自己評価： 3 ■学校関係者評価： 適合

項目IV 教授・学習・評価課程

総括

授業計画（シラバス）は各科目ごとに作成しており、ホームページ上で閲覧できるようになっている。冊子にして学生がいつでも閲覧できるようにすることを今後検討していく必要がある。また、新カリキュラムのシラバス内容についても学生の反応をみながら見直していく必要があると考える。

講義に関しては2か月前に時間割表を配布し、臨地実習は実習期間全体の配置表を配布している。臨地実習前後の配置表や時間割配布が2か月以上前の期日を守れないことがあったため、今後改善を図っていく。

令和4年度より各領域別で授業案や実習指導案を検討している。授業評価の分析や指導方法の改善は、各領域担当で施行している状況であり、全教員の2回以上の授業公開はできていないため、可能な範囲で計画していく必要がある。

看護科・准看護科の両科共に単位取得および科目履修に向けて、成績不振者には個別指導や試験対策の勉強会等の対応をしているため、今後も継続していく。

科目単位取得や科目履修の条件は、講義開始時から学生に周知し説明している。技術演習や実習の評価基準については、毎年検討・修正を継続していく。また、新カリキュラムによる進度に合わせた評価基準の検討・見直しが必要である。

外部講師を含めた授業評価アンケートの実施ができています。今後は、授業全体の評価をどのように公開して授業改善に繋げていくのかを検討していく必要がある。

課題・改善策

学生のレベルにあった授業の工夫については、専任教員間での授業研究をととして評価を行い講義の工夫・改善に取り組んでいく。また、ICT教育やシミュレーション教育のスキルを高めていくために教員研修等を受講し、授業改善に努めていく。

小項目 IV-1

授業計画が作成され、教育課程との整合性があり、学生が授業内容を理解できるようにしているか。

■自己評価： 4 ■学校関係者評価： 適合

小項目 IV-2

効果的な授業運営を図るため、適切に時間割を調整しているか。

■自己評価： 4 ■学校関係者評価： 適合

小項目 IV-3

授業内容や指導方法が学生レベルにあうよう工夫・改善しているか。

■自己評価： 2 ■学校関係者評価： 適合

小項目 IV-4

(看護科)

学生の単位取得にむけた支援を実施しているか。

■自己評価： 5 ■学校関係者評価： 適合

(准看護科)

全科履修に向けた支援を実施しているか。

■自己評価： 4 ■学校関係者評価： 適合

小項目 IV-5

学生に修了認定のための評価基準と方法を公表しており、かつ、評価について公平性・妥当性が保たれているか。

■自己評価： 4 ■学校関係者評価： 適合

小項目 IV-6

学生による授業評価及び教員の自己評価を実施し、授業の改善に努めているか。

■自己評価： 5 ■学校関係者評価： 適合

項目V 経営・管理運営

総括

医師会立の看護学校として、地域で活躍する看護師・准看護師の育成を軸とした教育目標を設定し、教職員の共通理解を図って取り組んでいる。単年度の組織目標の設定を行っていないため、次年度に向けて学校としての組織目標を設定していきたい。

学校運営評価は、学校評価委員の教職員が実施している。評価結果は、教職員に周知するとともに、学校関係者評価委員、学校担当理事へ報告し意見をいただいている。また、学校ホームページ上で公表を行っている。中間評価及び年度末評価の評価結果をもとに新たな目標設定や改善計画に取り組んでいる。

看護科・准看護科共にリーダーシップのもとチーム力を発揮し問題解決に取り組んでいる。今年度より教員の役割を従来の担任制から担当制とした。専門性を活かし、領域別の人員配置を行っている。教務会議で役割や方法の見直しを行い担当制について改善を行っている。

受験応募者数の確保に向けてオープンキャンパスや高校訪問、進路ガイダンスに取り組んでいる。

課題・改善策

学校のビジョンについては、3年後、5年後の社会情勢を見据えて、地域で求められる看護学校であるための目標策定を行っている。

小項目 V-1

学校のビジョン及びそれを実現するための組織目標を策定しており、かつ、その目標が教職員に理解されているか。

■自己評価： 1 ■学校関係者評価： 適合

小項目 V-2

学校運営評価を組織的に実施し、評価結果を教職員に周知するとともに、外部にも公表しているか。また、評価結果をもとに改善計画を策定しているか。

■自己評価： 5 ■学校関係者評価： 適合

小項目 V-3

管理職のリーダーシップのもと、両科主任がそれぞれの部署をまとめチーム力を発揮し問題解決に当たっている。

■自己評価： 5 ■学校関係者評価： 適合

小項目 V-4

より多くの応募者を確保することに努めているか。

■自己評価： 4 ■学校関係者評価： 適合

小項目 V-5

国試・資格試験の合格率が100%となるよう、教職員一丸となって取り組んでいるか。

■自己評価： 4 ■学校関係者評価： 適合

小項目 V-6

経済的、精神的側面からの学業継続支援体制が整い、効果的に活用しているか。

■自己評価： 5 ■学校関係者評価： 適合

小項目 V-7

学生の身体的側面の健康確保に努めているか。

■自己評価： 5 ■学校関係者評価： 適合

小項目 V-8

予算計画、年間事業計画を策定し、適正な予算の執行・進行管理を行っているか。

■自己評価： 4 ■学校関係者評価： 適合

小項目 V-9

学生や教職員等の人権・個人情報の保護について十分な対策がなされているか。また、学生、教職員に対しそれらの徹底を図っているか。

■自己評価： 4 ■学校関係者評価： 適合

小項目 V-10

災害など非常時の危機管理体制が整備されているか。

■自己評価： 4 ■学校関係者評価： 適合

小項目 V-11

学校運営に学生の意見が反映されるように努めているか。

■自己評価： 5 ■学校関係者評価： 適合

小項目 V-12

施設・設備の安心・安全が確保されているとともに障害者の利用に配慮された構造になっているか。

■自己評価： 5 ■学校関係者評価： 適合

小項目 V-13

教育目標達成に必要な施設設備及び教材が整っているか。また学生の自主的な学習の場が確保されているか。

■自己評価： 5 ■学校関係者評価： 適合

小項目 V-14

学生のための福利厚生施設・設備は整っているか。

■自己評価： 5 ■学校関係者評価： 適合

小項目 V-15

図書室は利用しやすく学生に十分活用されているか。

■自己評価： 4 ■学校関係者評価： 適合

小項目 V-16

実習室は学生数に応じたスペースが確保され、必要な備品設備が整い、十分にその機能を果たしているか。

■自己評価： 5 ■学校関係者評価： 適合

小項目 V-17

学校の存在を周知するため、積極的な広報活動をしているか。

■自己評価： 4 ■学校関係者評価： 適合

項目VI 入学

総括

入学前説明会を1月～3月にかけて、各科2回ずつ実施した。入学前から事前課題を提示し、入学後の学習に備えることができている。新入生には早い段階で個人面談を計画し、支援が必要な学生の把握に努めている。

小項目 VI-1

入学生への支援を行っているか。

■自己評価： 5 ■学校関係者評価： 適合

項目VII 卒業・就業・進学

総括

卒業生のホームカミングデイについてはまだ開催できていないが、次年度より卒業生の近況報告や、在校生へのキャリア開発支援もかねて計画していく。また卒業生が必要とする支援、相談などは随時行っている。

学生の就職に関しては必要に応じて対応している。医師会立の看護学校の設置目的を再確認しながら、地域で活躍できる看護職の育成に努めている。また、入学者向けの県内就職案内一覧を希望者が閲覧できるように整えているが、学生の要望もあり、ホームページ上での閲覧ができるような工夫が求められているため、今後対応していく。

学生の就職に関しては必要に応じて対応している。医師会立の看護学校の設置目的を再確認しながら、地域で活躍できる看護職の育成に努めていきたい。

小項目 VII-1

卒業生への支援を行っているか。

■自己評価： 3 ■学校関係者評価： 適合

小項目 VII-2

卒業生の県内就職率を高めるよう努めているか。

■自己評価： 5 ■学校関係者評価： 適合

小項目 VII-3

進学、就職などの進路に関して学生の相談に十分応じているか。

■自己評価： 5 ■学校関係者評価： 適合

項目VIII 地域貢献

総括

『ナイチンゲールの灯 平和運動』にボランティアで参加した。また、令和6年度には、佐賀県で開催される『全国障害者スポーツ大会』に競技者の支援として学生が参加する予定である。新型コロナウイルス感染症の感染症法が改正になることで、地域のボランティア活動についても再開していきたい。

リカレント教育は、看護師の能力を高めるためには欠くことのできない支援である。令和5年度には、卒業生や実習指導者を対象に、学生の講義に参加し学び直しを提供できるよう計画する。

課題・改善策

医師会立の看護学校として地域貢献につながる活動の実施ができていない。看護学生または看護教員による、講座の紹介を継続する。新型コロナウイルス感染症の感染対策を図りながら、地域のボランティア活動へ参加していく。

小項目 VIII-1

地域社会の一員として、地域への広報・貢献・奉仕活動・連携の工夫を行っているか。

■自己評価： 3 ■学校関係者評価： 適合